

## 業績目録の記入要領・記載例（助教・助手）

- ※ 最近のものから順に記載すること。
- ※ 著者リストの本人の氏名を太字にて、下線をひくこと。
- ※ 共著者が多数の場合は適宜省略し、何人の共著者中の何番目の著者かわかるようにすること。
- ※ 印刷中のもので代表的なものは業績の中に含めることができる。ただし、発行者側の査読等を経て正式に受理されたものとする。「印刷中」と明記するとともに、掲載証明書を添付すること。

### 1) 著書

- ・著者・書名・分担項目名・初頁～終頁・発行所・年の順に記載する。

1)	著書
1.	<u>滋賀 花子</u> 、滋賀 太郎：〇〇に関する研究、今日の外科治療 改定第2版（山田太郎編）、〇〇出版、50-75、2015
2.	<u>Shiga H</u> , Shiga T, Otsu A. Characterization of 〇〇. in Modern therapy (White PA. ed) Churchill Livingstone, 25-32, 2010
3.	...

### 2) 学術論文

- ・著者・題目・雑誌・巻・初頁～終頁・年の順に記載する。
- ・査読の有無を記載する。
- ・Corresponding author である論文を明記する。
- ・共同で第一著者の場合等は PubMed などの順位のままとし、\*マークを付けて equally contributed であると記載する。
- ・論文種類の定義については医中誌による分類法 (<https://www.jamas.or.jp/database/policy2.html>) を参照のこと。ただし症例報告は下記の例の様に原著論文と分けて記載する。letter (論文形式でないもの) や commentary はその他に記載する。

2)	学術論文
	欧文原著
1.	Tokyo S, <u>Shiga H</u> , Miyagi A, Osaka B, Yamaguchi D, Shiga T. Preserving ■□ cell function is the major determinant of △△ in Japanese patients. <b>Surgery</b> . 159: 817-826, 2019 査読付
2.	<u>Shiga H (corresponding)</u> , Aichi H, Ehime O, Okayama T, Shiga T. Tyrosine kinase receptor TEX is a key regulator of oncogenesis in colon. <b>Nature</b> . 540: 547-555, 2018 査読付
3.	Chiba A*, <u>Shiga H* (equally contributed)</u> , Yamaguchi D, Osaka B, Nara B, Hyogo J, Shiga T. Impact of △△ in the patients with 〇〇 disease: a randomized clinical trial. <b>Surgery</b> . 160: 123-132, 2017 査読付
4.	...
	欧文総説
1.	<u>Shiga H</u> , Shiga T. Molecular mechanisms of oncogenesis of 〇〇 in humans and their potential links with Immune system. <b>Cell</b> . 150: 256-265, 2010 査読付
2.	...
	欧文症例報告
1.	Kumamoto A, Tokushima O, Kochi D, <u>Shiga H</u> , Okayama M, Yamaguchi D, Osaka K, Nara B, Hyogo J, Shiga T. A case of 〇〇 disease with family history of hypertension. <b>BMJ open case reports</b> . 160: 123-132, 2017 査読付
2.	...

欧文その他

1. **Shiga H**, Shiga T. Molecular mechanisms of oncogenesis of ○○. What is the current challenge? *Oncogene*. 150: 256-265, 2010 **Commentary** 査読付
2. ...

和文原著

1. **滋賀 花子 (corresponding)**、滋賀 太郎：●●に対する新規治療 XX の効果は長期予後に有用である、△△学会誌、12: 130-137, 2019 査読付
2. ...

和文総説(依頼原稿含む)

1. **滋賀 花子**、滋賀 太郎：●●における XX の治療、○△学会誌、43: 13-17, 2014 査読付
2. 滋賀 太郎、**滋賀 花子**：最新の XX の治療に関する Topic、今日の○○、10: 250-256, 2013 査読なし
3. ...

和文症例報告

1. **滋賀 花子**、山口 大介、滋賀 太郎：○○病に対して新規抗がん剤 X が著効した一例、◆□雑誌、40: 12-18, 2018 査読付
2. ...

和文その他

1. **滋賀 花子**、滋賀 太郎：●●病治療ガイドライン 2018、△△学会誌、11: 1-12, 2018 ガイドライン
2. ...

### 3) 学会発表

・特別講演・シンポジウム・教育講演・一般演題（口演・ポスター）について、演者名・題目・学会名・発表年の順に記載する。

3) 学会発表

<国際学会>

特別講演

1. **Shiga H**, Shiga T. Molecular mechanisms of oncogenesis of ○○ in humans and their potential links with Immune system. **53<sup>rd</sup> Annual meeting of American Cancer Association**, 2011

シンポジウム・教育講演

なし

一般演題

1. **Shiga H**, Kumamoto A, Tokushima O, Kochi D, Okayama M, Yamaguchi D, Osaka K, Nara B, Hyogo J, Shiga T. A case of ○○ disease with family history of hypertension. **54th Annual meeting of American Cancer Association**, 2012 (口演)
2. **Shiga H**, Chiba A, Yamaguchi D, Osaka B, Nara B, Hyogo J, Shiga T. Impact of △△ in the patients with ○○ disease: a randomized clinical trial. **50th Annual meeting of American Cancer Association**, 2008 (ポスター)
3. ...

<国内学会>

特別講演

1. **滋賀 花子**、山口 大介、兵庫 順次、滋賀 太郎. Impact of △△ in the patients with ○

- disease: a randomized clinical trial. 第 74 回日本外科学会年次学術集会、2017
2. 滋賀 花子 YIA 受賞講演 ○○の新規治療法の発見、第 60 回日本消化器○○学会、2015

#### シンポジウム

1. 滋賀 花子 ○○が発癌に与える影響に関する網羅的解析、第 80 回日本消化器内科学会年次学術集会、2019
2. ...

#### 教育講演

1. 滋賀 花子 ○○病の Up to date、第 76 回日本外科学会年次学術集会、2019
2. ...

#### 一般演題

1. 滋賀 花子、茨城 次郎、宮崎 礼、滋賀 太郎. レセプトデータを用いた○○病発症のメカニズムに対する探索的研究、第 76 回日本外科学会年次学術集会、2019 (口演)
2. 滋賀 花子、滋賀太郎 新規治療薬 X の○○病における有用性の検討 第 75 回日本外科学会年次学術集会、2018 (ポスター)
3. ...